

6月1日(土)からメバルの刺し網漁業が解禁され、小泊地区ではメバル漁の最盛期を迎えました。

午後8時30分を過ぎると、漁を終えた船が次々と帰港し、メバル色に染まった網を陸に揚げます。その後、漁師やその家族などが、メバルを網から手早く外し、大きさ毎に分けます。その作業をしている間は、漁船が暗闇を照らすため、漁港全体が漁り火に包まれたような光景が広がります。

メバルの刺し網漁は、8月末までの3か月間見ることが出来ます。



修学旅行を前に子どもたちがメバルを食す

町内小中学校の給食に
メバルの煮付け提供



「メバル推し」のまちづくりを進める中、メバルを食べることができない子どもたちにその味を知ってもらおうと、6月5日(水)に町内各小中学校の給食で、メバル料理が提供されました。この日は、濱館町長が薄市小学校を訪れて、児童たちと一緒に給食を食べました。昨年の塩焼きに引き続き、今年は煮付けが提供され、メバルを味わった子どもたちは、修学旅行先でのPR活動に活かします。

PR活動は、修学旅行先で中泊町の魅力を発信をする子どもたちに町のことを学習してもらうことも目的にしています。6月13日(木)には薄市小学校の児童たちが函館駅前で行ったPR活動を行いました。下記は、児童たちがまとめた体験記で、役場玄関付近に掲示されています。ぜひ、ご覧ください。

